

研究テーマ名	中山間エリアの高校における交通課題解決のための教育活動
背景と目的	<p>大阪府立豊中高等学校・能勢分校は、中山間エリアに位置する学校であるが、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されるなど、グローバルな視点から様々な教育活動に取り組んでおり、地域での進学希望者も多い。しかし、同校の課題として、「通学課題」が挙げられ、近年では進学希望者が通学を理由に入学を断念するなど、入学者の減少・定員割れが続いている。現在、徒歩や路線バス、自動車での送迎といった通学手段があるが、それ以外は自転車通学が最終的な手段となっている。ただし、自転車通学においては、安全面で中山間エリア特有の多くの課題を抱えている。</p> <p>そこで、2021年度と2022年度に行政・団体連携プロジェクトを実施し、高校生に電動アシスト付き自転車（e-bike）という新たな交通手段を提供することで、交通のあり方の学習支援により課題解決力の向上を目指すとともに、地域課題全体の解決への展開を図ってきた。具体的には、生徒たちの運転行動を画像データとして記録し、どのようなリスク行動をとっているか等について分析を行い、その分析結果を踏まえた交通安全教育を実施した。また、高校生たち自身で通学路の道路環境について考えてもらい、いかなる環境整備が必要であるかを議論してもらった。</p> <p>そうした2年間の調査研究成果にもとづき、この社会貢献プロジェクトでは、高校生たちが交通安全教育プログラムを開発し、それを小学生や中学生に対して実施することを目指している。</p> <p>また、これまでの成果を踏まえ、高校生たち自身による「交通安全に関する提言」をまとめ、能勢町役場に提出することを目指している。そうした提言をまとめるために、地域住民や行政関係者の方々と一緒にワークショップを開催し、多様な視点から交通安全について検討する。最終的に、本プロジェクトでまとめる提言にもとづき、今後、能勢地区における交通安全施策の改善が行われることを期待している。</p> <p>さらに、2021年度から実施してきた調査研究プロジェクト、ならびに2023年度に実施する社会貢献プロジェクトの成果を踏まえ、高校生たちが主体的に交通安全教育に取り組み、行政や地域と連携することを可能にする要因を分析し、それを他の学校や地域でも応用可能なモデルとして提示することを目指している。</p>
期待される成果	<p>これまで実施した調査研究の成果にもとづき、交通安全教育プログラムを高校生たち自身が開発することによって、交通課題を解決するための方策を高校生たちが「自分ごと」として理解し、行動することが期待できる。したがって、本プロジェクトで最も重要な成果は、高校生たちが交通安全意識を高め、安全な運転行動をとるようになり、通学中の事故が減ることである。</p> <p>実際に、2021年度・2022年度に調査研究プロジェクトを実施したことにより、能勢分校では2020年度までと比べて生徒たちの通学中の事故が減ったことが確認されている。しかし、どのような要因で事故が減少したのか、といった検証は十分に行われておらず、今回の社会貢献プロジェクトを通して、そうした事故が減った要因についても分析し、生徒たちのさらなる交通安全意識の向上につなげることを目指している。</p> <p>また、高校生たちから能勢町役場に対して「交通安全に関する提言」を提出する。このように、高校生たちから町役場や地域住民、地場産業界に対して交通安全に関する提言を行うことによって、地域住民の交通安全に対する意識が向上したり、行政がより安全な道路整</p>

備を行ったりといった、実際性に関する成果も期待できる。

なお、高校生、町役場、地域住民、地場産業界の間で、交通安全に関する情報や問題意識を共有するため、定期的に意見交換を行える場を作ることが欠かせない。そのような場（＝能勢交通安全フォーラム（仮称））の立ち上げも、本プロジェクトの成果として考えられる。

さらには、こうした若者による地域に根差した活動を通して、他地域（とりわけ能勢と同様に過疎化が進んでいる中山間エリア）でも応用可能なモデルの開発といった、先見性に関する成果も期待できる。

最後に、本プロジェクトの成果を、高校生たちも執筆者として参加する形で、書籍として刊行し、社会的な発信を行う。